

科 目 名	小児看護学概論	単位数	1	時 間 数	15
担 当 教 員	専任教員 長野県あさひ学園医師	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	大人とは違う小児の特性を知ること、小児に関わる視点を学ぶ。小児の健全な発達に影響を及ぼす因子や健康を護るシステムを理解する。				
学 習 目 標	1. 小児の特性がわかる 2. 小児看護の対象がわかる 3. 小児看護の変遷がわかる 4. 子どもと家族を取り巻く社会の変化がわかる 5. 子どもと家族の権利を守る法律がわかる 6. 子どもと家族に必要な看護の役割と倫理が考えられる				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 子どもの成長・発達 1) 成長・発達 2) 発育の原則 3) 発育に影響する因子 4) 小児各期 2. 小児看護の対象	講義・演習 視聴覚教材	3H	専任教員	
	3. 小児看護の変遷 4. 子どもと家族を取り巻く社会の変化 1) 出生率、小児死亡、受療率、罹患率、家族構成、食生活、遊び、貧困 5. 子どもと家族の権利を守る法律 1) 児童憲章、児童の権利に関する条約	講義	3H		
	2) 児童福祉法、母子保健法、学校保健安全法、予防接種法		2H		
	6. 小児看護における倫理		2H		
	7. 児童虐待の現状		2H	医師	
	8. 小児看護の役割		2H	専任教員	
	評価方法	筆記試験			1H
テキスト	統計看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児概論／臨床総論 (医学書院)				
参考文献	生涯人間発達論 服部祥子 (医学書院) 国民衛生の動向				
担当教員からメッセージ 子どもが苦手だと感じる人は、子どもに関する知識が少ない人、または自分に余裕がない人です。小児看護には、対象を知る・関心を寄せるといった看護の基礎が詰まっています。子どもの特徴を知ることが苦手意識の軽減につながる、そんな糸口を見つけていただけたらと思います。					

科 目 名	子どもの成長・発達と看護	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	小児各期の成長発達の詳細を理解する。それに基づきその時々 of 健全な成長発達を促す援助について具体的に学ぶことをねらいとする。小児看護の対象は、出生前から青年期までの時期まで幅広い。したがって、母性看護学と成人看護学と重なる部分をもつ。ここでは乳児期から思春期に重点を置いて教授する。				
学 習 目 標	1. 子どもの成長と発達 2. 新生児の健康増進のための看護と家族への支援 3. 乳児の健康増進のための看護と家族への支援 4. 幼児の健康増進のための看護と家族への支援 5. 学童期の子どもの健康増進のための看護と家族への支援 6. 思春期の子どもの健康増進のための看護と家族への支援				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	専任教員
	1. 形態機能的発達 2. 心理社会的発達（エリクソン、ピアジェ） 3. 発育評価 1) フィジカルアセスメント 2) 乳幼児発育曲線、肥満度、指数	講義 視聴覚教材	4H		
	4. 新生児の特徴と必要な看護 1) 低出生体重児を含む 5. 新生児のいる家族への看護	講義 視聴覚教材 グループワーク プレゼンテーション	6H		
	6. 乳児の特徴と必要な看護 7. 乳児のいる家族への看護	講義 視聴覚教材 グループワーク プレゼンテーション	6H		
	8. 幼児の特徴と必要な看護 9. 幼児のいる家族への看護	講義 視聴覚教材 グループワーク プレゼンテーション	6H		
	10. 学童期の特徴と必要な看護 11. 学童期の子どもがいる家族への看護	講義	2H		
	12. 思春期の特徴と必要な看護 13. 思春期の子どもがいる家族への看護	講義	2H		
	14. 小児に必要な技術	講義・演習	3H		
	評価方法	筆記試験		1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児概論／臨床総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児各論 (医学書院)				
参 考 文 献	服部祥子著 『生涯人間発達論』 医学書院 病気がみえる vol.15 小児科 第1版 メディックメディア 《ビデオ》「さくらんぼ坊や」 その他参考文献につきましては授業内でお伝えします				
担当教員からのメッセージ 少子化と言われている世の中で、子どもとかかわったことのある学生も減っていると思います。イメージが付きにくいえに暗記すべき部分も多く大変だと思います。しかし、国家試験で必ず問われるところです。グループワークを通して子どもの発達と看護の基礎を楽しく学びましょう。					

科 目 名	健康障がいをもつ子ども・家族への看護	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	病院医師 専任教員 施設看護師	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	小児の健康障がい時における看護を理解する。そのために、小児特有の健康障がいや小児に多い健康障がいの病態生理を学ぶことが必要である。病態をとらえ、成長発達に応じた看護について理解する。				
学 習 目 標	1. 健康障がい子どもと家族に与える影響とその看護がわかる 2. 小児特有な疾患・小児に多い疾患の原因・症状・診断・治療・予後がわかる 3. さまざまな状況にある子どもと家族への看護がわかる 4. 小児看護技術の習得ができる				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 病気や入院が子どもや家族に与える影響 2. 入院を要する子どもと家族への看護 1)入院環境、入院オリエンテーション、身体計測、バイタルサイン測定 2)プレパレーション（検査、処置、活動制限）	講義	3H	専任教員	
	3. 先天異常と手術・処置を要する疾患	講義	4H	病院医師	
	4. 感染症		2H		
	5. 障害		2H		
	6. 白血病、川崎病		2H		
	7. 気管支喘息、糖尿病、ネフローゼ症候群	講義 GW	6H	専任教員	
	8. 急性期にある子どもと家族への看護 1)症状に対する看護 2)外来における看護 3)手術を受ける子ども、救急処置を受ける子ども				
	9. 回復期にある子どもと家族への看護（術後）				
	10. 慢性期にある子どもと家族への看護 1)心身障がいのある子ども 2)先天的な問題、隔離	講義・GW	1H 2H	専任教員 施設 看護師	
	11. 終末期にある子どもと家族への看護 1)痛み	講義・動画	1H	専任教員	
	12. 小児看護技術 1)採血時の抑制 2)坐薬使用の方法 3)輸液療法中の小児の寝衣交換 4)採尿パック	講義 演習	1H 3H		
評価方法	筆記試験			1H	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児概論／臨床総論 （医学書院） 統計看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児各論 （医学書院）				
参 考 文 献	・スーザン・バーレイさく・え『わすれられないおくりもの』評論社 ・『小児看護』へるす出版・山城雄一郎他著『難病の子どもを知る本』大月書店 ・吉崎達郎・明橋大二著『子育てハッピーアドバイス小児科の巻』シリーズ 1 万年堂出版 《ビデオ》 「小児看護技術」vol. 1～3 医学映像教育センター 「小児のフィジカルアセスメント」vol. 1～3 医学映像教育センター				
担当教員からのメッセージ 授業は、実習で多く経験する看護の方法についての教授が中心になります。実習施設では経験できないことが国家試験には多く出題されます。国家試験に向けての自己学習が多い科目になります。国家試験の解説書などで理解できない部分はどんどん質問して下さい。					

科 目 名	健康障がいのある子ども・家族の事例展開	単位数	1	時 間 数	30
担 当 教 員	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	既習学習内容の成長発達や健康障がい時の援助の知識を統合し、小児の健康問題を解決する方法を学ぶ。個人の病態生理を理解する力、問題解決をする力の育成を目指す。				
学 習 目 標	1. 気管支喘息の病態生理・治療・看護がわかる 2. 気管支喘息児の事例の患児および家族の看護が考えられる				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 呼吸器の形態機能、喘息の病態（症状のメカニズム 発作の誘因、発作の程度・重症度、薬物療法） 2. 急性期に必要な看護 3. 学童期の発達課題	T B L	1H	専任教員	
	4. 学童期の児と家族に必要な退院時の看護 5. 子どもを入院させた母親の心理と母親に必要な援助	講義			
	6. 事例から必要とされる看護を導く 1) 情報を分析し、各像をまとめる 2) 全体像をまとめ、看護の方向性を明らかにする	個人ワーク	3H 4H		
	3) 看護目標を設定する 4) 問題点を明らかにする 5) 具体策を立案する	グループワーク	16H		
	6) 発表準備をする	個人ワーク	1H		
	7. 看護計画を発表する 8. 必要な看護を理解する	発表 まとめ	4H		
	評価方法	TBL（15 点）、個人の看護計画（20 点） グループの看護計画（20 点）、筆記試験（45 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児概論／臨床総論 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児各論 （医学書院）				
参考文献	『小児看護』 へるす出版 VOL. 37 No. 1 p52～58 『ここが知りたい小児ぜん息』 Q&A 独立行政法人環境再生保全機構 『看護学生のためのプチナースブックス 自分で描ける病態関連図』 照林社				
担当教員からのメッセージ 必要な看護を導くための視点作りを主眼としています。つまり、実習に対応できる臨床判断能力の育成を図ります。事例に必要な看護が理解できれば、疾患や対象の発達段階が変わっても、応用が可能です。 事例を読み取るためには、小児看護学の概論から方法論、保育園実習までのすべての知識が必要です。また、小児看護学は基礎看護学や成人看護学の知識を基にした応用でもあります。したがって、必要な知識は小児看護学の分野だけにとどまりません。事例の看護を考えられるように必要な準備をして臨んでください。 事例に必要な看護を導くために要する時間は人それぞれ異なります。自分の力を見極め、結果を出すためにどのようにしたらよいのか、考えて行動しましょう。また、授業時間中に有効なグループワークができるように、					